

第1回 栃木県自転車活用推進計画策定委員会 議事概要

1 日時

令和元（2019）年11月27日（水） 11:00～12:00

2 場所

栃木県庁 昭和館 多目的室4

3 出席者

大森宣暁委員長、新井俊一委員、池沢秀勝委員、工藤晃利氏（小幡宏委員代理）、木下敏成委員、工藤敬子委員、高坂美歩委員、谷英夫委員、野中正久委員、赤沼英里子氏（山田徹委員代理）、吉田英生委員

※議事に先立ち、栃木県自転車活用推進計画策定委員会規約（案）を確認し、大森宣暁委員を委員長に選出した。

4 議事

- （1）自転車活用推進法・自転車活用推進計画について
- （2）栃木県自転車活用推進計画の骨子（案）について
- （3）今後の進め方（案）について

5 議事概要

- ・事務局から資料に沿って議事内容を説明。その後、質疑応答を行った。
- ・栃木県自転車活用推進計画の骨子（案）について、確認された。
- ・今後の進め方（案）について、確認された。
- ・委員からの意見を踏まえ、事務局において、パブリックコメント案の作成を進めることとされた。

6 委員意見

○新井委員

- ・自転車を観光に活用することは素晴らしい。
- ・しまなみ海道サイクリングロードのように、栃木県でも自転車で走りたくなるルートづくりが必要。

○木下委員

- ・自転車のイベント時には、臨時列車の運行など、鉄道と自転車が連携できる可能性がある。

- ・日光国立公園など、素晴らしい自然がある。
- ・自転車を活用し、外国人観光客の方に素晴らしい景色を味わっていただきたい。

○高坂委員

- ・他県で、観光に適したルートを設定し、SNSでの拡散・PRやYouTubeでの発信を行っている。
- ・1日に1,000人が参加するイベントの開催も大切である一方、毎日10人に来ていただけるサイクリストの聖地を目指し、イメージづくりに取り組んでいければ良い。

○吉田委員

- ・交通事故ゼロを目指す交通安全活動の推進は非常に良いこと。
- ・自転車利用者が増えれば、自転車の事故も増えることが予想される。
- ・小さい子どもから大人・高齢者まで、安全教育を実施していきたい。

○工藤氏（小幡委員代理）

- ・国・県・市町で連携し、サイクリング環境を充実させていきたい。

○工藤委員

- ・まず、自転車の活用がゴール・目的になってしまってはいけない。
- ・デンマークでは、SDGsや環境に対する意識が高く、街に自転車があふれている。
- ・そのままバス・電車・地下鉄に乗り込みが可能であるなど、自宅から目的地まで自転車でたどり着けるように整備されており、一つの参考になる。
- ・デンマークのようなハード整備を行うことは難しいと思われる中、栃木県では、自転車を観光に活用することや、安全に利用することが求められている。
- ・健康づくりのツールとしては、超高齢社会において、年代ごとに安全が担保されることが第一。
- ・自転車は中高生の利用率が高いが、スマートフォンを持ちながら乗車するなど危険な状況も見受けられる。
- ・観光にも自転車が活用され、走る喜びを感じられるツールとなるためには、安全であることが大前提であり、安全教育に重点的に取り組む必要がある。

○赤沼氏（山田委員代理）

- ・他県において、サイクルイベント時に、自転車を分解せずにそのまま乗車できるサイクルトレインを運行している。
- ・鉄道と二次交通との連携は課題と捉えており、協力していきたい。

○野中委員

- ・今後はサイクルツーリズムの推進が必要と考えており、市の次期自転車活用推進計画に盛り込んでいきたい。

○池沢委員

- ・安全安心の確保に道路整備は欠かせない。

- ・時間はかかるが、道路整備を進めていかないと、自転車の大会の誘致にもつながらない。
- ・自転車を観光に活用する際も、走行環境の整備が求められる。

○大森委員長

- ・安全に自転車に乗ることができるということが一番大切。
- ・栃木県はくるま社会であるが、環境にも健康にも良い自転車が、日常生活でもさらに活用されれば良い。
- ・高齢者の安全性への懸念については、電動アシスト自転車や3輪の自転車もあるので、これらを取り入れることも考えられる。
- ・各委員からの意見を参考に、計画の策定を進めていただきたい。